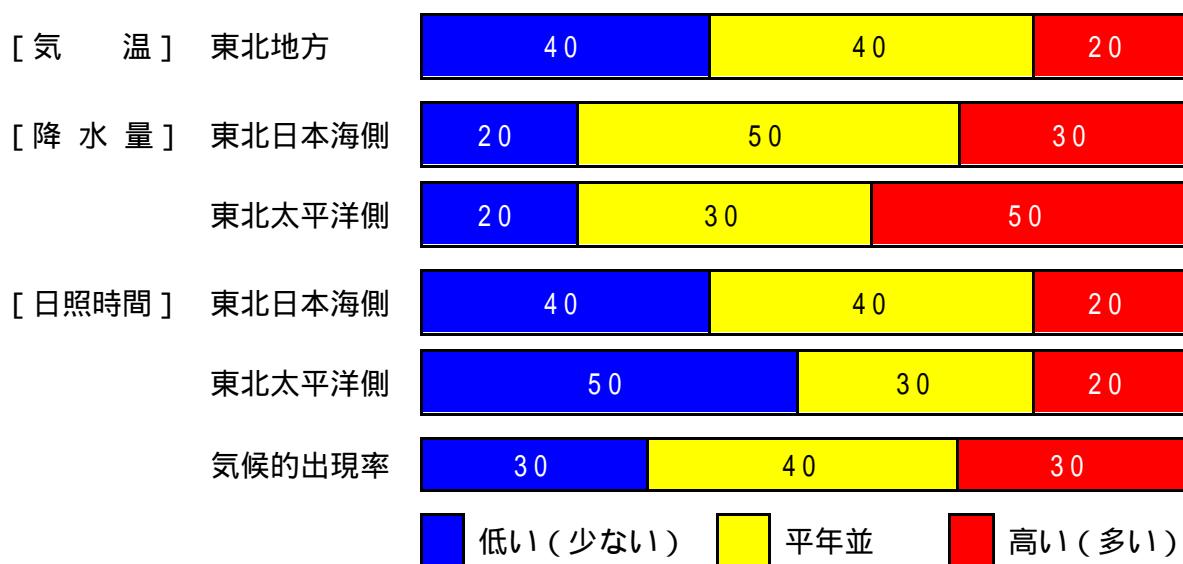


東北地方 1か月予報の解説(予報期間:5月13日~6月12日)

平成12年5月12日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)



[気温]: 東北地方は「平年並」か「低い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「高い」の確率は20%と小さい。

[降水量]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は30%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。

東北太平洋側は「多い」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は30%です。「少ない」の確率は20%と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

東北太平洋側は「少ない」の可能性が最も大きくその確率は50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は30%です。「多い」の確率は20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

東北地方は、前半は低気圧と高気圧が交互に通り、天気は周期的に変化するでしょう。東北太平洋側では、一時湿った東風の影響で天気がぐずつく時期があるでしょう。後半は、前線や寒冷低気圧の影響をうけ、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。また、オホーツク海高気圧の影響で、太平洋側を中心に低温となる時期がある見込みです。

寒暖の変動が大きく、降霜の恐れもあります。

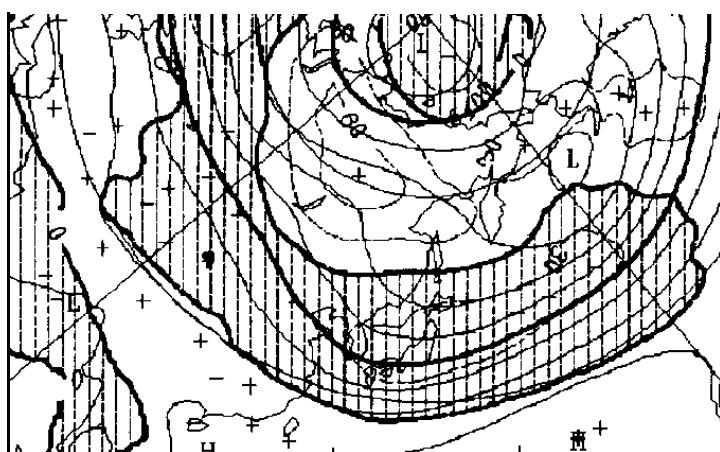
平均気温は平年並か低いでしょう。

平年の晴れ日数は、東北地方で約19日です。

各予報期間の天候の特徴

- 1週目…………… 期間の初めは東北日本海側では晴れる日がありますが、東北太平洋(5月13日～5月19日)側では東海上からの湿った気流の影響を受け、曇りの所が多いでしょう。期間の中頃は気圧の谷の影響で天気の崩れるところがある見込みです。期間の終わりは高気圧に覆われておおむね晴れるでしょう。
平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数は東北地方で約5日です。
- 2週目…………… 低気圧と高気圧が交互に通り、天気は周期的に変化するでしょう。
(5月20日～5月26日) 平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数は東北地方で約4日です。
- 3～4週目…………… 前線や寒冷低気圧の影響をうけ、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。また、オホーツク海高気圧の影響で、太平洋側を中心に低温となる時期がある見込みです。
平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数は東北地方で約8日です。

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

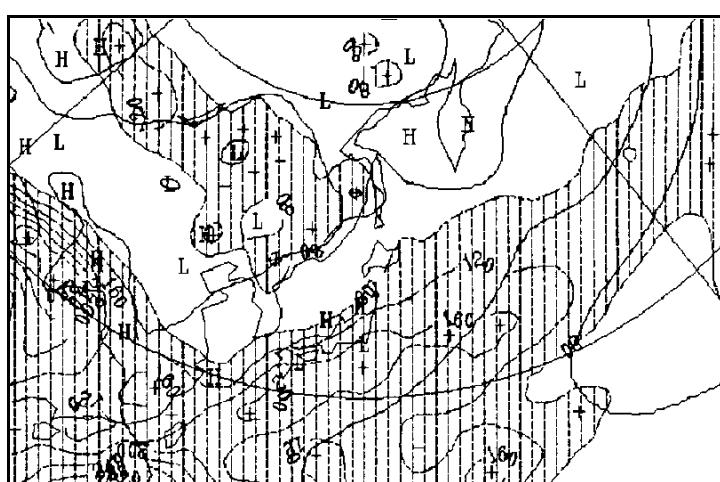


月平均の500hPa高度・偏差
(等高度線: 60m毎、偏差: 30m毎、陰影部: 負偏差)

・500hPa高度・偏差

月平均でみると、日本付近の中緯度帶は負偏差に広く覆われる。一方、極東域の高緯度帶は、バイカル湖附近に中心をもつ正偏差に覆われる。

週別（図略）でもほぼ同様の傾向を示が、2週目から3～4週目にかけては太平洋高気圧がやや強まり、日本の南の前線帯は北上傾向。3～4週目にはシベリア東部に気圧の尾根があり、オホーツク海高気圧が発生する時期がある見込み。



月平均の地上気圧と降水量
(等圧線: 4hPa毎、降水量: 40mm毎、陰影部: 80mm以上)

・地上気圧と降水量

月平均でみると、日本の南から東シナ海にかけて前線帯に対応する降水域がひろがる。降水の中心は日本の南岸沿い。また、カムチャッカ半島付近には高気圧があり、東北太平洋側では湿った東風の影響を受ける時期がある見込み。

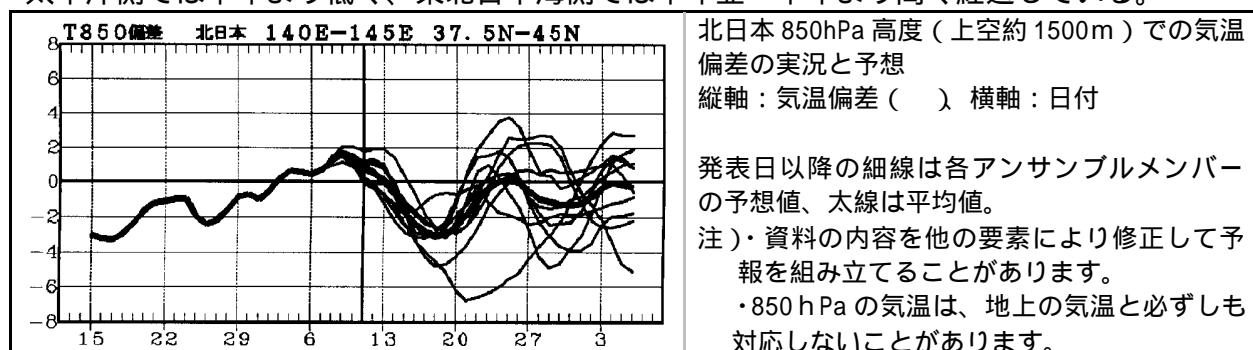
週別（図略）では、前線帯が2週目から3～4週目にかけて、徐々に北上し、3～4週目には東北地方でも影響を受ける時期のある見込み。

3. 北日本 850 hPa の気温平年差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850 hPa の気温平年差は、アンサンブルメンバーの平均でみると、予報期間 1 週目は平年より低く、2 週目以降平年並～平年より低く経過する見込み。ただし、2 週目以降メンバー間のばらつきが大きくなる。

ただし、東北地方の地上気温平年差は、北日本 850 hPa の気温平年差が負偏差の場合は 2 度程度高めに推移している。

また、最近の実況は、最低気温は東北地方では平年並～平年より高いが、最高気温は東北太平洋側では平年より低く、東北日本海側では平年並～平年より高く経過している。

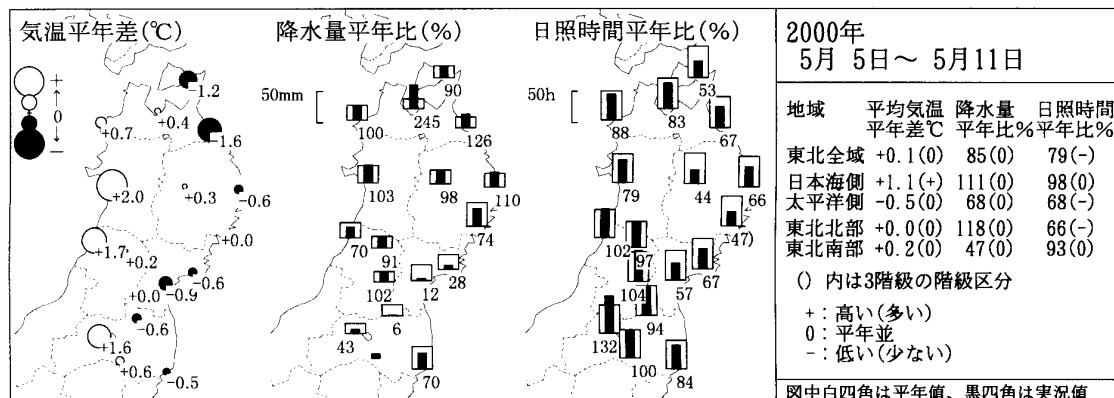


注：1か月予報では、よく似た初期値から出発した10個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大さな予報を出すことができます。

4. 最近 1 週間 (5 月 5 日～5 月 11 日) の天候の経過

この期間、5 日から 7 日にかけては、湿った東風の影響を受け、東北太平洋側では曇りの所が多かった。東北日本海側ではおおむね晴れた。8 日には上空の寒気の影響をうけて、大気の状態が不安定となり、落雷や降雹などで被害が発生した。落雷により岩手県で死者一名、降雹により宮城県を中心に農作物等に被害が発生した。9 日は移動性高気圧に覆われおおむね晴れた。10～11日にかけては、湿った東風の影響を受け、東北太平洋側では曇りの所が多かった。東北日本海側ではおおむね晴れた。

平均気温は、東北日本海側で平年差+1.1 と平年より高く、東北太平洋側で平年差-0.5 と平年並だった。降水量は、東北日本海側で平年比 111% と平年並、東北太平洋側で平年比 68% と平年並だった。日照時間は、東北日本海側で平年比 98% と平年並、東北太平洋側で平年比 68% と平年より少なかった。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差 (比)